

春子発生に備えて

1 はじめに

2月から4月にかけては、植菌作業や春子発生の準備が主な作業となります。

以前は、春先は気温が低く降水量も少なかったのですが、近年は気温の変動が激しく高温になる日もあったことから、急激な気候の変化に対応できるよう万全の準備で春子の生産量を増やしていきましょう。

2 植菌・仮伏せ作業

本県では桜の咲く頃までが植菌作業を終える目安です。しかし、春子が発生してからでは植菌が後回しにされがちですので、早期に作業を終わらせましょう。

3 春子生産量を増やすための作業

春子の生産量を増やすためには、ホダ木の湿度が重要です。このため雪どけが終わらないうちに防風ネットを設置して湿度を保つとともに、発生操作やきのこを大きく生長させるための散水施設、温湿度保持や雨子防止のための被覆資材の活用が必要です。

(1) 防風ネットの設置

ホダ場の雪解けが急速に進むと、ホダ木は乾きはじめます。防風ネットを設置し湿度を保ちましょう。湿度が保てると生産量も増やすことができますので、散水できない場合は必ず設置するようにしましょう。

(2) 散水の実施

散水は発生量を増やす最も効果的な方法で、散水の開始は、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のとおり「彼岸の中日」以降が一つの目安です。凍結に注意し、天気予報を参考に実施してください。初めの散水は少量でホダ木の樹皮を柔らかくしてから、本格的に散水を行ないましょう。

散水は夜間または朝行い、日中の気温が高くなるときには、しいたけの生長を促させるためやめます。

(3) 被覆資材の活用

芽切った後低温が続く生長できない時には被覆資材(ビニール等)を使用して保温・保湿すると生長させることができます。なお、急激な高温時には被覆を取り除く必要があります。

4 内陸部(天気予報での内陸北部・南部の地域)での留意点

(1) 人工ホダ場の活用

人工ホダ場は林内と比べて雪どけが遅く、分散発生には良い場所ですので、人工ホダ場も活用してみましょう。

(2) 春の高温対策

しいたけが芽切った直後に、急激に暑くなるのがここ数年ありました。散水後には断熱効果のある被覆資材(アルミ上着フィルム等)を活用するなど高温対策を講じましょう。

5 沿岸部(天気予報での沿岸北部・南部の地域)での留意点

(1) 大雪対策

沿岸部は春先に重い大雪に見舞われることがありますので、これからの天気予報には十分注意しましょう。ビニールハウスは、脇に落ちた雪に引っ張られて天井部分が破れることがありますので、両脇の除雪が必要です。

(2) 防風ネットの設置

沿岸部は、積雪量が少ないこともあって内陸よりも乾燥が著しいため、防風ネットを内部にも張ると、より保湿に効果的です。

乾燥機について

(1) 乾燥機の煙突は、使用前に掃除をして鳥の巣等を除去してください。それから試運転を行いましょう。

(2) パーナーの着火部分は、点火しやすいようにきれいに掃除してください。

(3) 両袖の大型の乾燥機を使用する場合の注意点として、片袖を使用していたため、使用しない方に風が入り込まないようにストッパーを入れていることがあります。気づかずに両袖を使用しようとすると送風機を傷めることがありますので、使用前には必ずストッパーが入っていないことを確認してください。

(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536

F A X 019-697-1410